

令和6年度

琉球医学会学生向け特別講演会

演題「100年越しのpandemicからの教訓： 感染症、免疫と睡眠医学」

講師：西野 精治先生

(スタンフォード大学精神科教授・睡眠生体リズム研究所所長)

日時：7月22日(月) 17:00～

場所：臨床講義棟 2 階 大講義室



西野 精治

Nishino Seiji

生年月日 1955年

出身 大阪府

専門分野 睡眠に関すること全般

経歴 1987年、当時在籍していた大阪医科大学大学院からスタンフォード大学精神科睡眠研究所に留学。突然眠りに落ちてしまう過眠症「ナルコレプシー」の原因究明に全力を注ぐ。1999年にイヌの家族性ナルコレプシーにおける原因遺伝子を発見し、翌2000年にはグループの中心としてヒトのナルコレプシーの主たる発生メカニズムを突き止めた。2005年にスタンフォード大学睡眠生体リズム研究所 (SNCL) の所長に就任。睡眠・覚醒のメカニズムを、分子・遺伝子レベルから個体レベルまでの幅広い視野で研究している。睡眠本としては異例のシリーズ35万部を超えるベストセラーとなった『スタンフォード式最高の睡眠』の著者。「睡眠負債」、「黄金の90分」といったキーワードが大きな関心を集め、テレビ・雑誌等のメディアにおいても多数取り上げられる。

スタンフォード大学医学部精神科教授

スタンフォード大学睡眠生体リズム研究所所長

株式会社ブレインスリープ創業者 兼 最高研究顧問

西野先生はThe Sleep and Circadian Neurobiology Lab (SCN Lab) にて所長として睡眠医学に関する研究を実施されています

スタンフォード式
最高の睡眠



出典: <https://www.ricomotion.com/nishino/>, <https://www.sunmark.co.jp/eng/book/health-and-beauty40/>

令和5年度「西普天間住区跡地における沖縄健康医療拠点形成に関する調査」

～プログラム～

《開会挨拶》 17:00-17:05

座長：琉球大学大学院医学研究科長・医学部長 筒井 正人

《ご講演》 17:05-17:55

《質疑応答》 17:55-18:00

お問い合わせ：琉球医学会事務局（内線 2920）

100年越しのpandemicからの教訓:感染症、免疫と睡眠医学

スタンフォード大学医学部 精神科
スタンフォード大学睡眠生体リズム研究所

西野精治

2020年初頭より「COVID-19」の猛威により 全世界で多くの死者を出すpandemicとなったが、今から100年前の第1次世界大戦の頃にスペイン風邪(H1N1インフルエンザ)が流行し、全世界で5億人が感染し、1億人が死亡したとも報告された。スペイン風邪の流行は、私が専門とする睡眠医学においても重要なインシデンスであり、流行に伴って発症した嗜眠性脳炎(エコノモ脳炎)でもヨーロッパで多くの死者が出た(500万人が感染し、死者の総数は50万人ともいわれる)。ウィーンの病理学者であった、フォン・エコノモは視床下部後部に脳炎病変が限局すると過眠症状が出現し、エコノモ脳炎の典型例として、後部視床下部、中脳に脳炎病変があり、動眼神経麻痺を呈する症例を挙げている

当初、嗜眠性脳炎はインフルエンザが脳に侵入し引き起こされた脳炎と考えられたが、現存する死亡患者の脳組織では、脳ではウイルスの検出頻度は低く、死亡例の多くはいわゆるインフルエンザ脳症と考えた方がよいという解釈が一般的である。すなわち、過眠、神経症状を呈し重篤な転機をたどる疾患は、インフルエンザ感染で惹起される自己免疫脳炎の可能性が高い。

COVID-19のpandemicに関して、我々は睡眠障害、中でも睡眠時無呼吸症候群が、COVID-19やインフルエンザの重要な感染リスクであることを見出し報告した(Scientific Reports、12, 19640, 2022)。本講演では、睡眠と免疫機構、感染症と睡眠、睡眠障害、ならびに過眠症の発症と免疫機序についても考察を加えたい。